

# 令和元年度三年生・大学院生研究発表会発表題目 (氏名 発表題目)

〔三年生〕

〔藤本ゼミ〕 日本語学

稲垣 沙弥香 「死ぬ」の平安時代における用法―

『源氏物語』を中心に―

山下 愛実 過去を表すアトの様相―アトゲツを

中心に―

〔灰谷ゼミ〕 日本語学

井崎 凌太 長崎県方言における「〜ンバ」の機能

越智 紘人 創作物における告白の言葉とその効果

について

小野 里佳子 大分市方言のアスペクト形式「チョン」

について―世代差の観点から―

海内 彩里 備後地方若年層における方言評価につ

いて

佐藤 駿人 糸魚川方言における勧誘表現「マイカ」

について

武田 奈美 談話における一人称明示の意味と機能

について

前川 清風 関西方言における「のだ」表現につい

て

山根 麻由 間接的行為要求と配慮について

リム・ジット・フォン

紛失を表す「〜にいった」と「〜にやつ

た」の違いについて

和田 七音 大阪方言における「ネンヤンカー」に

ついて

〔岸本ゼミ〕 中古文学

藤江 純 大友黒主研究―勅撰集入集歌におけ

る技巧的要素―

渡邊 美里 文学作品や和歌から考える葦手の傾向

と受け入れられ方―平安時代の葦手

を中心に―

〔藤川ゼミ〕 中世文学

廣谷 京子 源具氏の和歌の研究―建長八年「百

首歌合」から―

〔藤沢ゼミ〕 近世文学

芳年画「清姫」をめぐる

太古 早紀 滑稽本『虚空談』考

永井 千晴 『怪談夜半鐘』「再生の美人」考

西 優希奈 『天明水滸伝』における長崎・丸山遊

郭について

花村 美咲 『化物太平記』考―読本『繪本太閤記』

との比較を中心に―

菱岡 妙子

『こし路の章』考

福原 葵

『夢心の鯉魚』の英訳『The Story Of Kogi The Priest』における『夢』の認識

細川 万衣花

『女重宝記』と『男重宝記』

吉田 彩夏

『稲生物怪録』考―絵巻の写本化について―

いて―

〔柴ゼミ〕〔近現代文学〕

大鷹 萌華

吉屋信子「小さき花々」論

表西 ひとみ

漫画作品のメディアミックスにおける

中原中也像

国松 真祐

「ジョゼと虎と魚たち」小説と映画の

比較・考察

高祖 ひづる

尾崎豊における詩・詞の確立

佐々木 美佳

メディアミックスの中の宮沢賢治作品

―「銀河鉄道の夜」を中心に―

森野 梢

〔原ゼミ〕〔近現代文学〕

創作

五十嵐 万由

夢野久作「鉄鎚」論

奥山 菜々子

自己紹介（創作）

服部 圭

〈私〉を侵す〈私〉―笙野頼子「未闕

病記―膠原病、「混合性結合組織病」

の」における自己免疫疾患

花に恋う（創作）

横山 祥子

〔藤井ゼミ〕〔民俗学〕

〔伝承文学〕

赤川 穂乃

佳福井県小浜市に伝わる八百比丘尼伝

内田 早希

承に関する研究

中島 舞花

長崎県長崎市宮崎町「汚池姫伝説」の

研究

研究

広島県呉市音戸町の民謡「音戸の船唄」

〔鷹橋ゼミ〕〔中国文学〕

佐々木 新

『搜神記』における動物

〔光原ゼミ〕

創作

安部 紗弥香

鏡に映る海の向こうの遠い場所

石塚 春菜

藍色を知る・女神にブラックバイトの

石原 遼一

相談して人生変わった・帰り道にて

江口 敷

世界で一番自由な場所

太田 かな

溺れる子供

の石

ギフトゝ落ちこぼれ魔法使いと虹色

榎山 奈由

愛されたい人たち

谷坂 利香

猫の葬式

千々和 朋憲

おれが最後におまえにしてやれること

則直 真衣

見谷 香乃

山田 茉里奈

山水 結衣

【大学院生】

芝崎 祐介

二〇一二年、人類は滅亡する

夜明けと心中・踊れ！バンビーニ・

つきよ、おちよ

向日葵の咲いた朝

呼ばれる

帰郷小説としての林房雄「青年」試論